

研究区分	教員特別研究推進（地域振興）
------	----------------

研 究 テーマ	栄養指導の質向上に向けた栄養指導記録の質的分析				
研究組織	代 表 者	所属・職名	食品栄養科学部・助教	氏名	榛葉 有希
	研究協力者	所属・職名	食品栄養科学部・教授	氏名	保坂 利男
		所属・職名	株式会社杏林堂薬局	氏名	日高 彩夏
		所属・職名	有限会社庵原調剤薬局	氏名	柴田 昭
	発 表 者	所属・職名	食品栄養科学部・助教	氏名	榛葉 有希

講演題目
栄養指導の質向上に向けた栄養指導記録の質的分析
研究の目的、成果及び今後の展望
【目的】 医療機関における栄養食事指導や特定保健指導など、疾病の予防・改善を目的とした食事指導（以下、食事指導）は広く実施されている。しかし、食事指導において具体的にどのような目標を設定すべきかについては十分に明らかになっていない。そこで本研究では、食事指導において実際にどのような目標が設定されているかを探索的に明らかにすることを目的とした。 【成果】 今年度は2つの協力施設におけるデータ収集およびデータクリーニングを完了し、そのうち1施設のデータについて、SMARTの法則との関連性に着目した解析を実施した。SMARTの法則は経営学領域で提唱された概念であり（Management Review, 1981）、目標設定において、Specific（具体性）、Measurable（測定可能性）、Achievable（達成可能性）、Relevant（関連性）、Time-bound（期限）の5要素を満たすことが望ましいとされている。 本研究では、特定保健指導の実施記録264件（平均年齢49歳、男性38.3%、平均BMI 27.3 kg/m²）から得られた633件の目標を対象として分析を行った。表記ゆれ等を修正した後、2名以上の解析者がSMARTの法則に基づき、指導記録から評価可能なSpecific、Measurable、Relevantの3項目について該当性を判定した。その結果、Specificを満たす目標は50%、Measurableは20%、Relevantは75%であった。 さらに、SMART各項目の該当有無と体重変化量との関連について重回帰分析により検討した。その結果、調整後の体重変化量はRelevantのみと有意な関連を示し、SpecificおよびMeasurableについては一貫した関連を認めなかった。 【今後の展望】 本研究の結果は、特定保健指導の主目的であるメタボリックシンドロームの改善に関連する内容を含む目標（Relevant）が、体重変化と関連する可能性を示唆するものである。一方で、具体性（Specific）や測定可能性（Measurable）といったSMARTの他の要素については、体重変化との一貫した関連は認められなかった。今後は、目標の達成状況や実施状況など、他の要因との関連についても検討する必要があると考えられる。 本研究は特定保健指導の実施記録を基にしており、医療機関において医師の指示のもと実施される栄養食事指導とは結果が異なる可能性がある。現在データクリーニングが完了している協力施設に加え新たな協力施設を募り、施設間における指導内容の差異についても検討を進める予定である。